

## 令和3年度第1回越谷市文化財調査委員会会議録

- 1 開催日 令和3年8月4日（水）
- 2 会場 越谷市役所 本庁舎8階 第2委員会室
- 3 開閉会 開会 午後2時00分  
閉会 午後3時15分
- 4 出席委員 7名  
板垣 時夫委員、加藤 幸一委員、鈴木 照子委員、高崎 光司委員、  
林 貴史委員、橋本 雄一郎委員、矢口 孝悦委員
- 5 事務局出席者  
鈴木教育総務部長、木村生涯学習課長、山田副課長、  
橋本主幹、菟原主査、栗原主事、喜多主事
- 6 傍聴者 傍聴申請なし

会 議 次 第
1 開会
2 自己紹介
3 委員長及び委員長代行の選出について
4 報告事項 (1) 文化財保護事業結果について (2) 文化財保護事業計画について
5 その他
6 閉 会

### 【会議内容】

- 1 開会 山田副課長（司会）
- 2 自己紹介
- 3 委員長及び委員長代行の選出について
  - 司 会 越谷市文化財調査委員に関する規則第7条第1項の規定に基づき、委員に諮る。
  - 司 会 事務局が提案してよろしいか委員に諮る。  
※異議なし。
  - 事務局 会長に板垣委員を、委員長代行に矢口委員を提案する。
  - 司 会 委員に諮る。  
※異議なし。

※事務局提案のとおり承認され、委員長に板垣委員、委員長代行に矢口委員が選任される。

#### 4 報告事項

##### (1) 文化財保護事業結果について

- 委員長 事務局に説明を求める。
- 事務局 資料に基づき説明。
- 委員長 委員に質疑・意見等を求める。
  
- 委員 配付資料7ページ、「浅間川橋梁レンガの保存」の「浅間川」は「千間川」が正しいのではないか。ここでいう「浅間川」は、江戸時代からある「千間堀」のことを指すのだと思う。
- 事務局 確かに河川の名前としては「千間川」が正しい。しかし、橋梁台帳には「浅間川橋梁」という名称で記載されているため、それに合わせた表記にしている。
- 委員 市民に情報が公開された場合、問い合わせが入ると思う。
- 事務局 固有名詞のためこのような表記にしている。これからも、橋梁単体を指す場合は「浅間川」、河川名など歴史的事項を説明する場合は「千間川」と使い分け、注釈をつけて分かりやすくする。
  
- 委員 配付資料5ページ、大道遺跡から9世紀後半の丸靱が出土したことについて、出土事例があまりない非常に重要な遺物だと思われるが、市としてはどのような見解を持っているのか。
- 事務局 出土の状況については、土坑中からの出土であり、土坑の大半は中近世の井戸によって破壊されている。方形と考えられ、2つのコーナー部分が確認できる状態のため、竪穴住居ではないかと推定されるが、破壊されているため全形は不明である。丸靱は単体で底面から浮いた状態で出土し、共伴遺物は土器細片のみであった。他遺跡における丸靱などの飾りの出土状況をみると、単体で出土する事例が多いとのことだった。丸靱等をベルトごと切断して配付したり、地鎮のために使われたりする、とも言われている。  
今回の件については、遺構の大半が破壊されているため解釈付けは難しいが、配付や地鎮に関係があるのではと考えている。いずれにせよ、丸靱はどここの遺跡でも出土するものではないため、大道遺跡は当該期において、ある一定の位置づけがあった遺跡だったと考えられる。土器焼成土坑などもあるので、今後、学術的な解釈を進めていきたい。
- 委員 丸靱などは春日部市浜川戸遺跡や八潮市八條遺跡でも出土事例があるとの説明があったが、浜川戸遺跡と大道遺跡では小鍛冶関連遺物が出土している。元荒川を通じて、両遺跡の繋がりがあったということが重要だと思われる。
  
- 委員 先ほど議題に挙げた浅間川橋梁について、歴史的な位置づけとして、何年代ぐらいに建設されたものなのか。
- 事務局 橋梁は上り線と下り線の両方が存在し、今回は上り線の橋梁を解体するということでそのレンガをいただいた。年代については現在調査中で、明治32年の東武線開通時か、線路が複線化したときに建設されたのではないかと考えている。建設から現在に至るまで修繕等もなかったようで、建設当時により近い状態であるといえる。

- 委員 今回レンガを収集・保存したとのことだが、越谷駅前のモニュメントのようなものなど、今後の活用についてはどう考えているのか。
- 事務局 東武鉄道ではモニュメント等での活用をしないため、レンガの収集・保存を行った。レンガにある刻印から詳細に調査する狙いもあったが、刻印がなかったため、「刻印がない」という事実について注目し、資料として保存していきたい。
- 委員 青い目の人形について、越谷市では大沢小学校で保存されており、最近では渋沢栄一ゆかりのものとして脚光を浴びている。小学校の道徳等の教科書や資料集では同校に保存されている旨が記載されている。今回改めて調査したことで、展示や公開等の今後の活用に案はあるのか。
- 事務局 市の平和展に出品されるとのことだったので、そこで実物を確認した。配付資料23ページの写真について、左側の椅子に座っているのが青い目の人形。その後ろに座っているのが、青い目の人形が寂しくないように、友達として全県的に用意された市松人形。右側については、当時人形の交換をアメリカ側で主導した方のお孫さんが、大沢小学校に人形が残っていることを知り、平成になってからご寄贈くださった人形である。人形が保管されているガラスケースの底面の引き出しには、青い目の人形のパスポートや、当時のアメリカ人の子供が書いた手紙などの資料が保管されているのを初めて把握した。今後、市としてどう活用していくかについては、未定である。
- 委員 今回の調査で、青い目の人形のみならず、様々なものが付随すると判明した。とても有意義な調査となったと思う。
- 事務局 本資料はその後、埼玉県立歴史と民俗の博物館でも展示された。その展示は、全県的に人形を集めたものだった。これによって、より研究資料が充実すると思われる。
- 委員 市松人形は、アメリカに送ったものもある。
- 事務局 市松人形は答礼としてアメリカに送ったものもあるし、青い目の人形の友達として各学校の人形とセットで保存されているものもある。県立博物館での展示によると、秩父市などでもセットで保管されており、熊谷市では1つの木箱に入れて保存されている例がある。

## (2) 文化財保護事業計画について

- 委員長 事務局に説明を求める。
- 事務局 資料に基づき説明。
- 委員長 委員に質疑・意見等を求める。
- 委員 懸案事項として、越ヶ谷秋まつりの文化財指定がある。指定のタイムスケジュール・見通しはどうなっているのか。また、感染症拡大防止のため、地域で支えている無形民俗文化財は活動を休止せざるを得ず、行政的なさらなる強い支援が必要だと考える。越谷市はまだ文化財保護条例の施行規則を制定していない。無形民俗文化財を指定するとき、保持団体の認定等が必要になるが、その場合、地域の同意を得なければならない。地域と行政がタッグを組んで無形民俗文化財を守っていく体制づくりが必要となるが、その元となるの

が施行規則であると思う。他の事業があまり動いていないこの機会に、教育委員会の規則で制定できるはずなので、制定も含めて支援について検討してほしい。それも含めて、今後の見通しについて説明をお願いしたい。

○事務局 秋まつりについては、前回は令和元年度に開催され、開催は例年3年に一度なので、今回は令和4年度に開催予定と見込まれている。この前提で調査を進めている。指定に向けて、今年度は専門機関に調査を依頼し、事前の調査を行う。実施年に当日の様子を調査し、次の年に補足調査を行う予定である。補足調査終了後、ご審議いただけるようなデータや調査結果がすべて揃うのではないかと考えているため、調査は3ヶ年計画となる。審議の過程で、調査結果の過不足が判明するとは思うが、それは今後の調査次第であると考えている。

○委員長 県内で祭礼行事、山車行事を見てきたが、行事が山車を含めたかたちできちんと継承されているという点で、越ヶ谷の秋まつりの山車行事は県指定クラスの内容だと思われる。行事・山車がきちんと伝えられている。県指定の前段階として市指定があり、いきなり県指定になることはあまりない。報告書が完成したらすぐに県に提出したほうがよい。今後、令和元年度の調査内容などで市指定のための調書を作成できるよう、早めに進めるようにしたほうが良い。久伊豆神社が越ヶ谷宿の中核の祭神として、それぞれの町会が支えている行事である。県内であのようなかたちで山車を組み立て、解体し、それが残っているというのはほぼないと思う。5町については、解体までです。そういった古いかたちが残っていることや、久伊豆神社の行列、渡御や還御のしきたりについても継承されている。また、迎え囃子や送り囃子についても、それぞれ各町の山車を迎える。その囃子手についても、本来は地元の担い手で済ますのではなく、交易の関係で地域の外から呼ぶものであり、越ヶ谷の秋まつりでは地域外から招く古い形態が継承されている。そういった点でも重要である。山車祭りについてはそういった意識を持って調査を進めてほしい。

## 5 その他

### (1) 委員からの提案

#### ①文化財に関する書籍の発行及び新指定文化財候補リストの提示について

○委員長 文化財調査委員会の今後も含めて数点お願いしたいことがあるので提案する。まず、今年度の人事異動で文化財担当者が1名増えたのは管理職の方々の尽力のおかげだと思う。文化財行政のさらなる発展を期待している。定員増については、これまで何度も訴えてきたことなので非常に感謝している。御礼申し上げます。

【提案1】 越谷市は博物館や資料館がないこともあって、特別展の図録等の文化財に関する研究成果が書籍で発行されていない。調査は進めているようなので、それを公開するべきである。印刷を外部に発注すると印刷費を予算でつける必要があり大変だが、庁内印刷であれば可能と思われる。さまざまなデータが蓄積しているので、工夫して、市民が活用できるようにしてほしい。例えば、三郷市で

は、市史編さん終了後、市史研究『葦のみち』を庁内印刷で発行しており、文化財審議会の委員も原稿を執筆している。市史編さんが終了してもう20年たつが、毎年発行している。工夫して発行をお願いしたい。

【提案2】 今年度の文化財調査委員会は年2回開催と説明があったが、市の指定文化財の候補を出したりするには2回では少ない。事務局には、市内で文化財に指定すべき候補のリストを次回の会議で出してほしい。指定をして、広く知ってもらうことが、市民が郷土に誇りを持つことへと繋がると思うので、ぜひそのように進めてほしい。

## 5 閉 会